

# らぼくとフェスタ

施設と支援団体が協力し利用者と感動の催しを創出



アフリカン太鼓の心躍るライブ

市内淀師の生活介護事業所「らぼくと」(小林不二也所長)は4日、第3回「らぼくとフェスタ」を同施設及び敷地で開催した。

重度の障がい者20名が通所している同施設では、地域住民と交流を深め、利用者や施設について理解を深めてもらおうと一昨年からフェスティバルを開催している。

室内会場では、クロウムによるポークルとベームによるライブ、あざみの会による車いすダンス、



太鼓の演奏にチャレンジ

合唱団コールエーコンのサックスの調べが催された。

敷地内には、富士特別支援学校富士宮分校、富丘小、宮四中、大富士中、東高など普段から交

流のある学校、百姓のパン工房、富士宮絆とどけ隊、レッドパール、あかつき園などの団体が様々な模擬店を出展し、来場者が列をつくって買い求める姿が見られた。



合唱で感動のフィナーレを迎えた

屋外ステージでは、富丘小による「ヘルシーにじますくん」「富丘ソーラン」の発表、クロウバーズのバトン、デュオメロマーネによるヴァイオリンコンサート、アイニケによるアフリカン太鼓の披露が行われた。アイニケの発表では、利用者も一緒になって太鼓を叩き、リズムに乗って体を動かしていた。

ステージの最後には、利用者、職員、コールエーコンのメンバーが「花は咲く」「翼をください」「さよなら」を合唱し、感動のフィナーレを迎えた。